

震災からの主な経過(～4月30日)

■青字：市の動き
■赤字：福島第一原発事故の状態

▶3月11日(金)【震災発生初日】



朝6時ごろの薄磯海岸の穏やかな海(Kouichi Seya氏提供)

- 14:46 三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震(M9.0)が発生(本市震度6弱)
この地震で福島第一原発1～3号機が自動停止
- 14:49 気象庁が大津波警報を発表
- 14:50 市災害対策本部を設置(市消防庁舎内)
避難所が開設、食料・寝具等調達を開始
- 14:51 市内沿岸部全域に対し、防災無線で避難指示
- 14:52 小名浜で津波第1波(1.0m)を観測
- 15:39 小名浜で最大3.3mの津波を観測
- 15:42 福島第一原発1～3号機で全ての交流電源が喪失
- 15:45 市内沿岸部全域に対し、サイレン吹鳴で再避難を指示
- 16:30 福島県知事に対し、自衛隊派遣を要請
- 16:36 福島第一原発1、2号機で非常用炉心冷却装置による注水が不能
- 17:55 臨時市長記者会見を開催(全力で震災に対応)
- 18:00 市水道局から断水および節水協力のお知らせ
救急病院、人工透析病院への巡回給水を開始
- 19:03 福島第一原発について原子力緊急事態宣言が発令
- 21:23 総理大臣より、福島第一原発の半径3km圏内の避難、3km～10km圏内の屋内退避指示が発令
- 23:00 陸上自衛隊が到着、災害支援活動を開始
- 避難所への食料配送を開始(～8/19)
 - 市内のほぼ全域で約13万戸が断水
 - 非常用地下貯水槽などによる市民への給水を開始
 - JR常磐線・磐越東線の運転が中止
 - 常磐自動車道、磐越自動車道が通行止め
 - 福島空港行きリムジンバスが通常どおり運行を継続

▶3月12日(土)

- 04:10 日本赤十字社福島県支部へDMAT派遣を要請
- 05:44 総理大臣より、福島第一原発の半径10km圏内の避難指示が発令
- 07:45 福島第二原発について原子力緊急事態宣言が発令(12/26解除)
総理大臣より、福島第二原発の半径3km圏内の避難、3km～10km圏内の屋内退避指示が発令
- 08:00 市消防本部、消防団、DMATが共同で、市内沿岸部全域における救助・救命活動を開始

- 10:00 避難所127カ所、避難者数1万9,813人(最大)
- 10:17 福島第一原発1号機でベントを開始
- 11:00 常磐自動車道、磐越自動車道が緊急交通路に指定
- 15:00 緊急消防援助隊が市内沿岸部での救助・救命活動を開始
- 15:36 福島第一原発1号機で水素爆発が発生
- 17:39 総理大臣より、福島第二原発の半径10km圏内の避難指示が発令
- 18:25 総理大臣より、福島第一原発の半径20km圏内の避難指示が発令
- 19:04 福島第一原発1号機、原子炉への海水注入を開始
- 市長がコメントを発表(落ち着いて表に出ないように依頼)
 - 高齢者等要援護者の安否確認開始
 - 送水系の基幹管路の復旧が完了し、配水池へ送水を再開
 - 市内21カ所に給水所を設置し、風船式給水槽などによる給水を開始
 - いわき平競輪場に、支援物資集配センターを開設
 - 災害対策本部に安否情報コーナーを設置
 - 津波被災地区における道路上などの流出がれきの撤去を開始(～4月上旬)
 - 自衛隊、緊急消防援助隊、市消防本部、消防団が共同で、市内沿岸部全域において救助・救命活動を開始
 - JMATが活動を開始(～5/3)
 - 福島空港に臨時便(伊丹空港線)を設定(～3/31)

▶3月13日(日)

- 05:10 福島第一原発3号機で冷却機能が喪失
- 08:30 市独自の判断で、久之浜・大久地区住民に自主避難を要請、緊急輸送バス運行にて避難移動を開始(国による屋内退避指示は3/15 11:00発令)
- 08:30 自衛隊、警察、緊急消防援助隊、市消防本部、消防団が共同で、市内沿岸部全域での救助・救命活動を開始(～3/14)
- 17:58 津波注意報解除に伴い、市内沿岸部全域に対する避難指示を解除
- 基幹浄水場、市水道局本庁舎などで24時間給水を開始
 - 簡易水道区域のうち田人・遠野全域、川前の一部で給水が可能に
 - 市総合磐城共立病院、福島労災病院などが通水
 - 市休日夜間急病診療所が診療を再開
 - 節車のお願い、ごみ収集休止について市民へ広報
 - 市保健所にて、放射線スクリーニング検査を開始
 - 市総合磐城共立病院医療スタッフが避難所巡回診療を開始(～4/28)
 - 福島空港に臨時便(羽田空港線、中部空港線、新千歳空港線)を設定(羽田～4/10、中部～3/31、新千歳～3/24)

▶3月14日(月)

- 11:01 福島第一原発3号機で水素爆発が発生
- 13:25 福島第一原発2号機で冷却機能が喪失
- 市役所窓口業務を一部再開(以後、順次再開)
 - 外国人相談窓口を開設

- 避難所ごみ、避難所し尿の定時収集を開始
- 市公式ホームページに「災害関連メニュー」を追加
- 被災医療機関からの転院搬送を開始(3/24、25)
- 福島空港に支援物資が到着、県内各地へ搬送(～5/2)

▶3月15日(火)

- 04:00 市内で最大放射線量を観測(23.72マイクロシーベルト/時)
- 06:10 福島第一原発2号機で衝撃音
- 06:14 福島第一原発4号機が爆発により一部損傷
- 09:30 市独自の判断で、小川町上小川字戸渡地区、川前町下桶売地区の一部(志田名・荻)に自主避難を要請(国による屋内退避指示は、同日11:00発令)
- 09:45 市長がメッセージを発表(不要不急の外出を控えるようお願い)
- 11:00 総理大臣より、福島第一原発の半径20～30km圏内の屋内退避指示が発令(小川町、川前町、久之浜町、大久町の一部が対象区域に設定)
- 13:17 原発避難のため、磐越自動車道いわき三和IC・小野IC、常磐自動車道いわき勿来IC・いわき湯本IC・いわき中央ICを開放
- 要望活動【民主党・自民党関係】(避難先確保、物資確保)
 - 休日救急歯科診療が開始(～4/3)
 - 重症患者の管外医療機関への救急搬送を開始(～3/30)

▶3月16日(水)



人々が消えた午前8時30分ごろのいわき駅前(FMIいわき提供)

- 05:45 福島第一原発4号機の建屋4階部分で火災が発生
- 08:30 自衛隊、警察、市消防本部、消防団が共同で、市内沿岸部の捜索活動を開始(～4/26)
- 10:40 市長がメッセージを発表(①市民の皆様への冷静な行動のお願い、②医薬品提供、③避難所への配送業務、④水道復旧作業協力をお願い)
- 水道水の放射性物質測定を開始
 - 被災建築物応急危険度判定を開始(～6/5)
 - 国および県と共同で、タンクローリー8台分のガソリンと軽油を市内11カ所の給油所に供給
 - 小名浜石油(株)へ石油の公共放出を要請
 - 市災害救援ボランティアセンター開設
 - 小名浜港藤原ふ頭、緊急物資受入岸壁の供用を開始

▶3月17日(木)

- 08:30 常磐西郷町の忠多団地に避難勧告

- 09:30 市長がコメントを発表(政府調達ガソリンの供給について)
- 09:48 福島第一原発3号機で陸自ヘリにより使用済燃料プールへの散水(約30t)を開始(～10:01)
- 市義援金の受け入れを開始
 - 草野小学校で自衛隊入浴サービスを開始(～3/19)

▶3月18日(金)

- 09:00 市長がメッセージを発表(安定ヨウ素剤の配布について)→妊婦・40歳未満の方に、安定ヨウ素剤の配布を開始
- 17:48 福島第一原発事故について、原子力安全・保安院がINES(国際原子力・放射線事象評価尺度)の暫定評価結果を1号機、2号機および3号機はレベル5、4号機はレベル3と発表(4/12に1号機、2号機および3号機についてレベル7に引き上げ)
- 市立幼稚園、小学校卒業式を中止
 - 高速バスいわき～東京線の運行が再開
 - 小名浜港に震災後、初めて緊急物資運搬船が入港

▶3月19日(土)

- 08:00 市長がメッセージを発表(市内災害弱者の支援)
- 18:30 市長がコメントを発表(ガソリンの確保・供給)

▶3月20日(日)

- 福島県と小名浜石油(株)の後押しで市内給油所や病院にガソリンと灯油を供給(～3/26)
- 知的障がい者33人を神奈川県へ船で移送(～4/11)
- 障がい者福祉施設等への支援物資配布を開始(～4/4)
- 老人福祉施設などへの支援物資配布を開始(～4/6)
- いわき市医師会が臨時診療所を開設(～3/21)

▶3月21日(月)

- 13:30 市長がメッセージを発表(市民への食料等の配布)→市民への食料等の配布を開始(～3/28・計6回)
- 常磐自動車道いわき中央IC～水戸ICの一般車両通行止めが解除

▶3月22日(火)

- 市総合磐城共立病院が外来通常診療を再開
- ごみ収集を一部再開(燃やすごみ・週1回)
- 市内路線バスの6路線が日祝日ダイヤでの運行を再開
- 大手コンビニの一部が再開(以後順次再開)

▶3月23日(水)

- 07:12 福島県浜通りを震源とするM6.0の地震が発生(本市震度5強)
- 07:36 福島県浜通りを震源とするM5.8の地震が発生(本市震度5強)
- 17:30 水道水測定の結果、放射性ヨウ素が103ベクレル

/kg検出され、乳児の水道水摂取を制限(～3/31解除)→乳児に対するペットボトル水の配布を開始(～3/31)

18:55 福島県浜通りを震源とするM4.7の地震が発生(本市震度5強)

21:00 市水道局が「給水復旧計画」を策定

- 市内の水道復旧率が5割に
- 避難所買物バスの運行を開始(～3/26)
- 港区スポーツセンターにおいて支援物資受け付けを開始(～3/31)

▶3月24日(木)

- 津波被災家屋等への消毒資材配布を開始(～7/22)
- 磐越自動車道いわきJCT～津川ICの一般車両通行止めが解除

▶3月25日(金)

11:46 内閣官房長官記者会見にて、福島第一原発の半径20km～30km圏内の住民の自主避難を促す

- 保育所等への飲料水等の配布を開始(～4/7)
- このころから郵便の集配再開



上空からの現場視察前に自衛隊員から説明を受ける市長

▶3月26日(土)

11:00 市長がメッセージを発表「震災から2週間を経過して」

- 要望活動【政府、民主党、自民党関係】(市民生活の安寧〈生活支援、生活確保、風評被害の解消〉)

▶3月28日(月)

- り災証明の現地調査を開始
- いわき市議会東北地方太平洋沖地震対策本部を設置
- 臨時市長記者会見を開催(総合窓口の設置、住宅の一時提供)
- 要望活動【政府・民主党・自民党関係】(農林水産物の風評被害の解消)
- FMいわきに臨時災害放送局を設置、通常出力の20Wを100Wへ増幅(～5/27)
- 市内38公立保育所のうち、18保育所で業務を再開
- このころから市内スーパー、コンビニが本格再開

▶3月29日(火)

- 総合窓口を市文化センターに開設
- 臨時市長記者会見を開催(ごみ収集全面再開、家庭から出た災害ごみの受け入れなど)
- 市被災救助費等、各種給付金の申請受け付けを開始
- 一時提供住宅入居者の一次募集を開始(～4/8)
- 小名浜港に震災後、初めて民間の大型石油タンカーが入港



市文化センターに設置した総合窓口

▶3月30日(水)

- 家庭から出た災害ごみの受け入れを開始(市内3カ所)
- 中央台公民館で自衛隊入浴サービスが開始(～5/30)

▶3月31日(木)

- 避難所における栄養相談を開始

▶4月1日(金)

- 17:31 「東日本大震災」の呼称が閣議で決定
- 避難所における医療相談を開始
 - 要望活動【政府、民主党、自民党、県知事関係】(福島第一原発災害の早期収束、風評被害の解消ほか)
 - 常磐自動車道いわき中央IC～いわき四倉ICの一般車両通行止めが解除

▶4月3日(日)

- 避難所入浴バスの運行を開始(～5/28)

▶4月4日(月)

- 市災害対策本部を市文化センターに移転
- 生活福祉資金(緊急小口資金)の特例貸付制度受け付けを開始
- ごみ収集を全面再開
- り災証明書の発行を開始
- 市災害救援ボランティアセンターの窓口を市社会福祉協議会に一本化

▶4月5日(火)

- 臨時市長記者会見を開催(津波により損壊した家屋の撤去など)

▶4月6日(水)

- 市立小中学校入学式を実施(被災地区などの小中学校では市文化センターで入学を祝う会を実施)
- 要望活動【県知事】(水産業への対応)
- 要望活動【原子力安全・保安院】(放射性物質の海洋放出)
- 敷地内流出がれきの撤去を開始(～7月末)
- 市内路線バスが一部路線を除き通常運行を再開

▶4月7日(木)

- 23:32 宮城県沖を震源とするM7.2の地震が発生(本市震度4)
- 23:34 気象庁が津波注意報を発表(翌日00:55解除)
- 市立幼稚園入園式を実施

▶4月8日(金)

- 臨時市長記者会見を開催(当面の緊急雇用対策)

▶4月9日(土)

- 「がんばっぺ!いわき オールいわきキャラバン」を市内5カ所で開催(～4/10)
- 要望活動【政府、民主党、自民党関係】(水産業への対応)
- NPOが中心となり、勿来地区災害ボランティアセンターを設立(～5/20)

▶4月10日(日)

- 市内水道がほぼ復旧(津波や地滑りの被災地区を除く)
- 保健師などによる津波被害地区の訪問活動を開始(～6/7)

▶4月11日(月)【東日本大震災発生から1カ月】



災害対策本部で黙祷

- 14:46 サイレン吹鳴とともに市内で黙祷
- 17:16 福島県浜通りを震源とするM7.0の地震が発生(本市震度6弱)
- 17:18 気象庁が津波注意報を発表(同日18:05解除)
- 18:19 田人町石住字貝屋地内で土砂崩れが発生、家屋が倒壊し、救助・救命活動を開始
- 19:00 市長がメッセージを発表(本市が「緊急時避難準備区域」の対象とはならないことについて)

19:30 市水道局から余震による断水および節水協力のお知らせ

- 同日の余震により市内約10万戸が再び断水
- 住宅の応急修理制度の申請受け付けを開始
- JR常磐線普通列車いわき駅～高萩駅で運転再開するも同日の余震により運転見合わせに
- 同日の余震により常磐自動車道、磐越自動車道が通行止め

▶4月12日(火)

- 14:07 福島県中通りを震源とするM6.4の地震が発生(本市震度6弱)
- 前日の余震により、市立小中学校休校(～4/17)
 - 「がんばっぺ!いわき オール日本キャラバン(第1弾)」を東京都港区で開催(～4/13)
 - 常磐自動車道いわき湯本IC～いわき四倉IC、磐越自動車道いわきJCT～小野ICの一般車両通行止め解除

▶4月13日(水)

- 08:00 田人町石住字才鉢地内の土砂崩れ現場において、救助・救命活動を開始(～4/16)
- 余震により運転を見合わせていたJR常磐線普通列車の運転が再開
 - 小名浜港に震災後、初めて内航貨物船が入港

▶4月14日(木)

- 第1回東日本大震災いわき市義援金配分委員会を開催
- 臨時市長記者会見を開催(一時提供住宅提供開始、義援金の配分)
- 要望活動【県知事】(福島第一原発災害の早期収束ほか)
- 常磐自動車道いわき勿来IC～いわき湯本ICの一般車両通行止めが解除



市長が田人町の被災現場を視察

▶4月15日(金)

- 14:00 田人地区(貝屋・神山・才鉢・堀越)に避難指示(4/16 18:00解除)
- 市義援金の申請受け付けを開始
 - JR磐越東線いわき駅～小野新町駅の通常運転が再開

▶4月16日(土)

- 一時提供住宅(雇用促進住宅・民間借上住宅)提供を開始

5 震災からの主な経過

- 市義援金の配分を開始(県内で最も早い配分)

▶4月17日(日)

- JR常磐線普通列車いわき駅～四ツ倉駅の運転が再開

▶4月18日(月)

- 本庁市民課業務をアリオス別館1階に移転(～10/14)
- 広報いわき臨時号「がんばっぺ！いわき通信」を発行
- 市立小中学校が授業を再開
- 要望活動【衆議院、政府、民主党、自民党】(福島第一原発災害の早期収束、風評被害の解消ほか)



アリオス別館に設置した市民課窓口

▶4月19日(火)

- NPOが中心となり、小名浜地区災害ボランティアセンターを設立

▶4月20日(水)

- 要望活動【県知事】(福島第一原発災害の早期収束ほか)

▶4月21日(木)

- 11:00 福島第二原発の避難区域が半径10km圏内から半径8km圏内に変更(12/26解除)

- 市内水道がほぼ復旧(津波や地滑りの被災地区を除く)

▶4月22日(金)

- 00:00 福島第一原発の半径20km圏内を警戒区域に設定
- 09:44 福島第一原発の半径20km～30km圏の屋内退避指示が解除、「計画的避難区域」および「緊急時避難準備区域」が設定→小川町、川前町、久之浜町、大久町の屋内退避指示解除

- 11:00 臨時市長記者会見を開催(工業製品等放射線測定検査体制等)
- 15:45 市長がコメントを発表(本市の屋内退避指示解除)
- 16:00 渡辺町上釜戸字青谷地区の一部に避難勧告(8/31 15:00解除)

- 市被災救助費等、各種給付金の支給を開始

▶4月23日(土)

- 11:00 臨時市長記者会見を開催(屋内退避区域解除に係

る内閣官房記者会見内容について)

▶4月25日(月)

- 国保年金課業務をアリオス別館4階に移転(～10/7)
- 工業製品の残留放射線測定を開始
- 市内小中学校における学校給食の一部を再開



市環境監視センターにおいて工業製品の残留放射線を測定

▶4月27日(水)

- 「がんばっぺ！いわき オール日本キャラバン」を都内3カ所で開催(～4/28)



天王洲アイル駅中央口改札外コンコースで開催したキャラバン(4月27日)

▶4月28日(木)

- 13:30 臨時市長記者会見を開催(一時提供住宅等二次募集)

- JR常磐線四ツ倉駅～久ノ浜駅の臨時バス運行を開始(～5/14)

- JR常磐線特急列車いわき駅～上野駅の運転が再開

- 常磐自動車道いわき四倉IC～広野ICの一般車両通行止めが解除

▶4月29日(金)

- 一時提供住宅入居者の二次募集を開始(～5/5)

- 市長がメッセージを発表(学校給食に関する風評被害)

▶4月30日(土)

- 遺体安置所を閉鎖



津波で壊滅的な被害を受けた平薄磯地区全景。左下に見えるのはかろうじて浸水はまぬがれた豊間小(3月25日 陸上自衛隊第8普通科連隊提供)

写真編

被災状況 ①



引き波で海底が表れた久之浜町金ヶ沢の海岸
(3月11日16:00ごろ 県消防防災航空隊提供)



久之浜町の商店街では、地震、津波、直後に火災が発生し、翌日まで燃え続けた
(左: 3月11日15:50ごろ 石川弘子氏提供)
(下: 3月12日朝 県消防防災航空隊提供)



波立海岸の弁天島と鳥居も大津波の猛威にさらされた
(3月11日15:25ごろ 鈴木道弘氏提供)



津波が襲った翌朝の久之浜町末続地区
(3月12日 県消防防災航空隊提供)

久之浜～四倉～新舞子～沼ノ内



押し寄せた津波で、海に沈む四倉の国道6号
(3月11日15:45ごろ いわき民報社提供)



国道6号を軽く越えた津波は、いわき市役所四倉支所付近も飲み込んだ
(3月11日15:40ごろ 吉田裕徳氏提供)



津波が引いた直後の「道の駅よつくら港」
(3月11日17:25ごろ 緑川健氏提供)



翌朝の四倉漁港あたり、船が国道6号まで乗り上げている
(3月12日 鈴木大氏提供)



新舞子海岸付近の水田も津波で浸水
(3月12日 県消防防災航空隊提供)



新舞子海岸沿いの県道は、地震や津波の影響で、いたるところで損傷を受けた
(6月5日)



写真右奥が沼ノ内地区、左が甚大な津波の被害を受けた薄磯地区、手前は沼ノ内漁港
(3月12日 県消防防災航空隊提供)



被災状況 ②



震災翌朝の薄磯地区。写真中奥の豊間小は難を逃れたが、左下の豊間中は1階部分が被災
(3月12日 県消防防災航空隊提供)



薄磯から塩屋崎灯台を臨む。防波堤や海岸沿いの道路は津波で大破
(4月1日 佐藤貴行氏提供)



海が姿を変えた。防波堤を乗り越えて津波が豊間地区を襲う。荒れ狂う海が自然の猛威、津波の恐怖を語る
(3月11日15:40ごろ 鈴木利明氏提供)

薄磯～豊間～江名～折戸～中之作～永崎



写真中央の薄緑色の大きな屋根は豊間保育園。施設は津波で全壊したが、居合わせた園児、職員はいち早く避難し、無事だった(3月12日 県消防防災航空隊提供)



震災翌朝。変わり果てた街を見つめている豊間地区の住民
(3月12日 箱崎裕二氏提供)



みぞれ模様のなか、津波の第1波が引いた合間をぬって高台に避難する江名地区の住民
(3月11日夕方 伊藤方美氏提供)



江名採鮑組合の詰所跡。この季節、ウニやアワビ漁の最盛期で活気に満ち溢れているはずだが、人影はまったくない
(6月12日)



数多くの水産加工場が津波で被災した折戸地区
(3月12日 県消防防災航空隊提供)



崩壊した永崎の太平橋。奥に見えるのが、永崎小。津波で1階部分が浸水
(6月12日)



中之作旧港付近。震災から3カ月たっても、転覆した船は放置されたまま
(6月12日)

被災状況 ③



小名浜港にも津波が。どこまで水位が上がるのだろうか。鳥たちも見覚えのない光景に狂舞している
(3月11日16:50ごろ 小名浜機船底曳網漁協提供)



震災翌日の小名浜港岸壁。巨大な船が打ち上げられていた。津波のエネルギーをあらためて感じさせる
(3月12日 佐川紘一氏提供)



津波で孤立した「いわき・ら・ら・ミュウ」。施設は、11月25日に再オープンした
(3月11日15:50ごろ 県消防防災航空隊提供)



福島臨海鉄道小名浜駅貨物ヤード。コンテナなどが散乱している
(3月12日 県消防防災航空隊提供)



大破したアクアマリンパークの岸壁。奥に見えるアクアマリンふくしまは、7月15日に再オープンした
(3月25日 佐藤貴行氏提供)

小名浜～いわきサンマリーナ～小浜～岩間～植田～錦～勿来



いわきサンマリーナのプレジャーボートは、浮き桟橋ごと流された
(3月11日15:50ごろ 県消防防災航空隊提供)



津波は、小浜町の小さな集落も襲った
(3月11日15:45ごろ 県消防防災航空隊提供)



津波の威力で防波堤が道路の反対側まで流されている岩間地区。煙突は常磐共同火力勿来発電所。ここも被災したが、主力の8・9号機が復旧したのに続き、休炉中の6・7号機についても再稼働し、東京電力と東北電力に電力を供給
(3月25日 伊藤明美氏提供)



鮫川河口付近の錦町須賀。津波で被災した家には、こいのぼりがたなびき、いつものようにハマヒルガオが咲いていた
(6月12日)



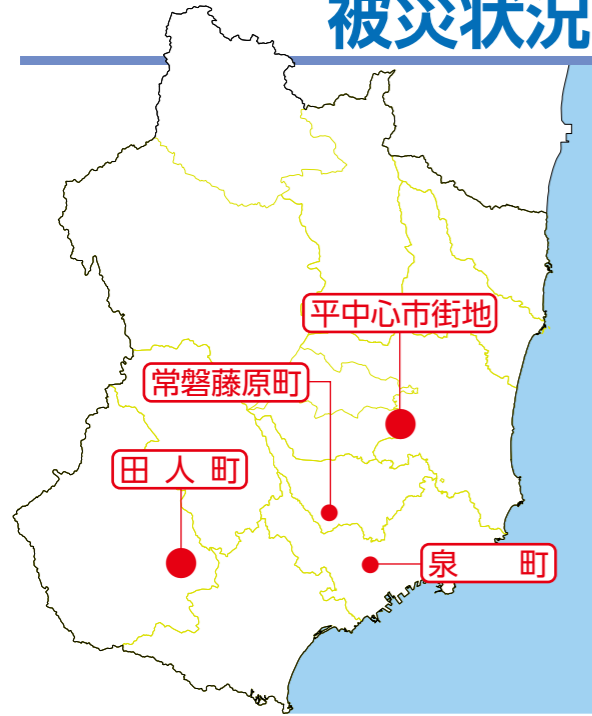
鮫川を遡る津波。河口付近の地域を除き、植田町や錦町は堤防に守られ、軽微な被害で済んだ
(3月11日15:45ごろ)



勿来町の関田御城前交差点付近。ここから南の国道6号は浸水しなかったが、このあたりまで津波が押し寄せた。三差路右方向は旧浜街道
(3月11日16:00ごろ 上遠野和裕氏提供)

被災状況 ④

平中心市街地



地震発生直後のJRいわき駅前。地面に座り込む人々の姿に混乱が見て取れる (3月11日15:05ごろ いわき民報社提供)



震度6弱の烈震で書棚などが倒れるなど、大きく被災したいわき市役所本庁舎。災害対策本部は、消防本部に置かざるを得ない事態に陥った (3月11日14:55ごろ)



商品が散乱したコンビニエンスストア (3月11日15:00ごろ いわき民報社提供)



平市街地の歴史的建造物も大破 (3月20日 月刊りい〜ど提供)



震災2週間後のいわき駅前大通り。徐々に街も落ち着き始めたが、波打つ道路が痛々しい (3月25日 佐藤貴行氏提供)

直下型余震の被災状況

田人～泉～常磐



田人町には複数の断層が走っている。4月の余震で2mほどの段差ができた道路が何カ所も発生 (4月13日)



田人町石住の土砂崩れが起きた現場では夜通し捜索が行われた (4月12日2:00ごろ)



4月11日の余震以降、泉町の常磐炭鉱通気口跡から温泉が噴出。火事と見間違ふほどの湯気が立ち上がる (6月17日 いわき民報社提供)



常磐藤原町地内の主要地方道いわき石川線付近。水田に地割れが見て取れる。簡易補修した道路は、色が変わっている (4月18日 県消防防災航空隊提供)



4月11・12日の震度6弱の直下型余震。断層が永い眠りから覚めてしまった。常磐藤原町の建徳寺境内の地割れ (5月2日 宍戸博氏提供)

がんばっぺ いわき

秋篠宮ご夫妻がいわき市をご訪問されました。津波被害を受けた平豊間地区を視察され、被害の状況について説明を受けられました。(6月17日)



市内各地では地域住民が中心となり、さまざまな復興イベントを開催。「風評ぶっとばせ!がんばっぺ四倉」(右 いわき民報社提供)が4月16日に、「元気だっぺ湯本」(上)が8月2日から20日間開催されました



いわき産の農産物の直売会などを行う「がんばっぺ!いわきオール日本キャラバン」第1弾をJR新橋駅前SL広場で開催。いわき市出身の学生ボランティアやいわき市ゆかりの皆さんが数多く応援に駆けつけました(4月12・13日)



自衛隊は、震災当日から市内に入り、幅広い分野で支援・救援活動を展開してきました。5月23日には、陸上自衛隊中央音楽隊が、湯本二中で慰問演奏会を開き、震災で疲れきった小中学生に素晴らしい生の音楽をプレゼントしました



窮屈で長引く避難生活を続けている子どもたちに、心の潤いを保ってもらおうと、各避難所ではボランティアによる「絵本の読み聞かせ」などが行われました。写真は避難所の一つとなっていたアリオス(4月26日)



年末にも、復興支援のイベントが数多く行われました。12月2日には、「がんばっぺ!いわき寄席」がアリオス(左)で、12月4日にはいわき明星大学で「闘魂まつりinいわき」(右)などが相次いで開催されました。会場に訪れた市民や被災された方々は、厳しい日常を忘れ、楽しいひとときを過ごしました

福島第一原発周辺自治体からは、2万人を超える住民がいわき市内で避難生活を余儀なくされています。いわきニュータウン(上)だけでも1,000戸の仮設住宅が建設されており、楡葉町(左下)や浪江町(右下)などでは、市内に出先機関を設置しています。「がんばっぺ!浜通り」





鎮魂



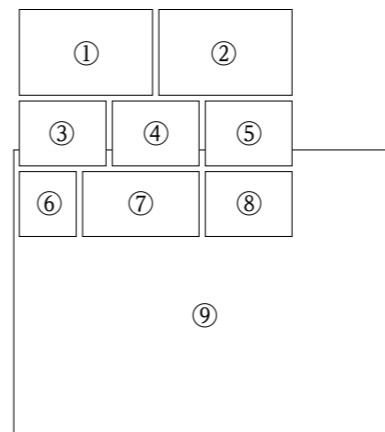
犠牲になられた方々を追悼するための合同追悼式を7月9日に市総合体育館で執り行いました。式では、小川地区の子どもじゃんがら念仏が披露され、亡くなった方の霊を慰めました

■ 本誌作成にご協力いただいた方々 (50音順：敬称略)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| アイベックスエアラインズ株式会社 | 関彰商事株式会社 |
| 秋田県由利本荘市 | 全日本空輸株式会社 |
| 石川弘子 | ソフトバンクモバイル株式会社 |
| 伊藤明美 | 東京都港区 |
| 伊藤方美 | 東部ガス株式会社福島支社平事業所 |
| 株式会社イトーヨーカ堂平店 | 東北電力株式会社いわき営業所 |
| いわきガス株式会社 | 公益社団法人土木学会 |
| 社団法人いわき観光まちづくりビューロー | 日産自動車株式会社 |
| 社会福祉法人いわき市社会福祉協議会 | 箱崎裕二 |
| いわき市タクシー事業協同組合 | 東日本高速道路株式会社東北支社 |
| 株式会社いわき民報社 | 東日本電信電話株式会社福島支店 |
| 株式会社ウィルコム | 東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 |
| 株式会社エヌ・ティ・ティドコモ東北支社 | 広島県福山市 |
| FMいわき(株式会社いわき市民コミュニティ放送) | 福島空港ビル株式会社 |
| 小名浜機船底曳網漁業協同組合 | 福島県いわき地方振興局県税部 |
| 小名浜石油株式会社 | 福島県いわき建設事務所 |
| 月刊りい〜ど(株式会社いわきジャーナル) | 福島県小名浜港湾建設事務所 |
| 国土交通省気象庁 | 福島県福島空港事務所 |
| 国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所 | 福島県警察本部 |
| 国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所 | 福島県消防防災航空隊 |
| 財団法人ふくしま海洋科学館 | 福島県石油商業組合いわき支部 |
| 佐川絃一 | 防衛省自衛隊福島地方協力本部いわき地域事務所 |
| 佐藤貴行 | 北海道国際航空株式会社 |
| 常磐共同ガス株式会社 | 株式会社マルト |
| 常磐興産株式会社 | 緑川健 |
| 常磐都市ガス株式会社勿来事業所 | 宮城県延岡市 |
| 新常磐交通株式会社 | 株式会社ヨークベニマル |
| 鈴木利明 | 吉田裕徳 |
| 鈴木大 | 陸上自衛隊郡山駐屯地 |
| 鈴木道弘 | 陸上自衛隊第8普通科連隊 |
| 宍戸博 | Kouichi Seya |

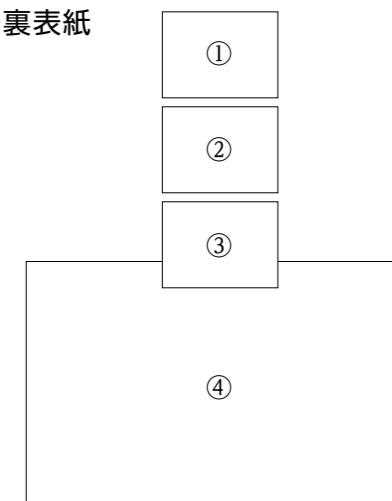
■ 表紙・裏表紙写真

● 表紙



- ①自衛隊、消防団などによる平薄磯での搜索活動
(4月1日：佐藤貴行氏提供)
- ②市長が久之浜町の被災現場を視察
(3月13日)
- ③久之浜町の住宅街を襲う津波
(3月11日：石川弘子氏提供)
- ④震災直後から情報を発信し続けたFMいわき
(3月11日：FMいわき提供)
- ⑤塩屋崎沖の初日の出
(平成24年元旦)
- ⑥平二町目商店街で開催された「鎮魂の竹灯りinいわき」
での復興メッセージ
(6月11日)
- ⑦営業を再開したスパリゾートハワイアンズ、グランド
ポリネシアンショーでアンコールに応えるフラガール
(平成24年2月8日)
- ⑧アクアマリンふくしま
ゴマフアザラシの赤ちゃん「きぼう」
(7月15日：(財)ふくしま海洋科学館提供)
- ⑨3月11日15：45ごろ岩間地区に押し寄せた津波
(県消防防災航空隊提供)

● 裏表紙



- ①いわき海星高校練習船「福島丸」が実習のため出航
(5月19日：いわき民報社提供)
- ②フル生産を再開した日産いわき工場から従業員と一致
団結する社長のカルロス・ゴーン氏
(5月17日：日産自動車(株)提供)
- ③書道家の南岳氏作「絆」の書を持つ豊間小の子ども
たち
(11月14日)
- ④「いわき農作物見える化プロジェクト“見せます！
いわき”」の市内農業関係者1,000人が田んぼに集結
(8月20日)

東日本大震災から1年 いわき市の記録 平成24年3月11日発行

- | | |
|-------|---|
| 企画・編集 | いわき市行政経営部広報広聴課およびプロジェクトチーム
いわき未来づくりセンター |
| 発行 | いわき市
〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地
TEL 0246(22)1111(代)
URL http://www.city.iwaki.fukushima.jp/ |